

児童発達支援事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和元年 1月10日

事業所名:こども発達さぽーとセンターるぼろ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
環境・体制整備	1	利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	小集団活動・個別活動と専用室を設置し、スペースが確保できるよう努めている。	はい 22 どちらともいえない 2 いいえ 0 わからない 0	整理整頓に努め、活動に応じて環境を構成し、有効にスペースを利用できるよう継続する。
	2	職員の適切な配置	必要に応じてグループに入る職員の数や人数を調整し、必要な人数で対応している。	はい 20 どちらともいえない 3 いいえ 0 わからない 1 ・療育回数をもっと増やしたい ・先生の事情もあるかと思うがなるべく1年間は担当の先生は変えないでほしい。	今年度は職員の体調不良によりグループ担当を変更せざるを得ない状況があったが、今後は職員の配置をなるべく固定させていく。療育回数については、今年度、多くの方が平等に療育を受けられるようなグループ編成にしたが、今後検討する。
	3	本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	活動によって部屋を使い分けたりしながら、子ども達が主体的に行動できるよう努めている。	はい 22 どちらともいえない 1 いいえ 0 わからない 0 無記入 1	引き続き、特性に応じて、子ども達が見通しを持ち主体的に動ける環境を設定していく。
	4	清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎朝掃除をしている。また、グループ終了後にも清掃し、次のグループが気持ちよく使用できるようにしている。	はい 22 どちらともいえない 2 いいえ 0 わからない 0 ・清潔面綺麗にされていますが、何度かほこりや髪の毛等気になった日があった。	療育前後の点検をこまめに行い、清潔で気持ちの良い環境の中で療育ができるよう努めていく。
業務改善	1	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	定期的に職員会議を開催し、支援方法や業務改善を話し合っている。	/	今後も継続する。
	2	第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	今年度は外部評価を受審していない。	/	今後外部評価の受審に向け検討する。
	3	職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	施設外研修に参加したり、外部からスーパーバイザーを招き助言を受けるなど、職員の質向上を図っている。また、外部からの講師による研修会を行っている。	/	今後も積極的に研修会に参加する。また、定期的にスーパーバイザーの招へいによる内部研修の実施にて、職員のスキルアップを図る。
適切	1	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	サービス提供時に子どもの観察、保護者との面談を行いながら支援計画を作成している。また定期的に職員会議で支援内容の確認を行っている。	はい 24 どちらともいえない 0 いいえ 0 わからない 0	継続して職員会議を通して、各担当者だけでなく様々な職種・職員が意見を出し合い、様々な視点からアセスメントを行う。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
な支援の提供	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	子どもの特性に応じて、集団活動と個別活動を組み合わせた計画を作成している。		今後も保育士・療法士等が協働し、個別活動と集団活動での共通理解をもって支援計画の作成に努める。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	支援計画の中で専門用語を少なくし、具体例を挙げるなどしてわかりやすく記載している。	はい 23 どちらともいえない 0 いいえ 0 わからない 1	今後も継続する。
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	支援計画の目標を意識しやすいように、記録用紙と一緒に目標を書いた用紙を準備している。	はい 22 どちらともいえない 2 いいえ 0 わからない 0	引き続き、支援計画の目標に沿った活動を行う。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	各グループの担当で話し合い、子どもの課題に沿った活動を決定している。		今後も担当者間で振り返りを行ったり、子どもの課題に沿った活動を専門職の意見も取り入れながら計画する。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	長期休暇の時期に合わせた活動内容を提供している。また、普段活動を見る機会の少ない保護者の方対象に父親参観を設けた。		長期休暇などを利用して、療育での様子や子どもの見方や関わり方についての親講座を検討している。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	個別支援計画に沿って、季節に合わせた活動プログラムを行っている。但し、見通しを持って行動できるという目的で、同じ活動を繰り返し行う場合もある。	はい 18 どちらともいえない 3 いいえ 0 わからない 2 無記入 1	季節に応じた活動を実施していきながら子ども達の活動の幅を広げてく。 子どもの発達に応じて反復活動したり、変化を持たせたりしながら実施する。 内容については毎回保護者へのフィードバックで分かりやすく伝えていく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	担当者間で活動内容や役割など打ち合わせてから活動に臨んでいる。		引き続き、担当者間で共通意識を持つように努める。
9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	療育終了後に担当者間で振り返りを行いながら記録し情報共有している。		今後も継続して取り組む。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	10 日々の支援に関する正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	記録用紙に『到達目標の達成度・成長の変化』『考察・次回支援のポイント』『面談記録』の記入欄を作り、保護者と面談結果や考察を書いている。		子どもの行動から考察し、次回の支援に活かしていけるようPDCAサイクルに沿った支援に努める。
	11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6ヶ月毎にモニタリングを実施し、今の子どもの姿と目標が合っているか達成度や支援方法の見直しを行っている。		今後も継続する。
関係機関との連携	1 子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理者だけでなく、必要に応じて小集団や個別療育の担当者も担当者会議に参加している。		引き続き、子どもの状態を把握している担当者が担当者会議に参加し、各事業所と共通認識をもつ。
	2 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	医療的ケアが必要な子どもの受け入れは現在実施していない。		
	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	医療的ケアが必要な子どもの受け入れは現在実施していない。		
	4 児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	小学校の担任の先生が見学にきたり、担当者が小学校に訪問したりして子どもの状態や情報を共有している。		引き続き、関係機関との担当者会議や、報告書を通じ支援方法を伝えるなどして情報を共有していく。
	5 放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	担当の相談支援専門員を通じて情報提供を行っている。		つながりのある支援ができるよう、情報共有に努めたい。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	定期的に近隣の専門機関に出向き、職員の質向上を目指した勉強会に参加している。		引き続き専門機関との勉強会に参加し、職員の質向上に努める。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	一部在籍児が、併設こども園に併行通園し、障害のない子供と毎日活動している。また、こども園の年間行事に参加する機会も設けている。	はい 13 どちらともいえない 2 いいえ 2 わからない 7	毎回の活動の積み重ねを重視し、安定してグループの活動に取り組めることを目標に今後も取り組むが、こども園等と連携を取り、交流の機会を設けていきたい。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	併設のこども園と連携し、敬老の日の行事やバザーなどを通して、地域の方との関わりを持っている。		今後も地域に開かれた運営ができるよう努めていく。
保護者への説明責・連携支	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に重要事項の説明と同意を得ており、また、その内容の変更の都度、説明と覚書を取り交わしている。 支援内容については療育終了後のフィードバックで毎回伝えている。	はい 24 どちらともいえない 0 いいえ 0 わからない 0	継続して対応する。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	支援計画を保護者にも分かりやすい表現とし、読み上げて十分に理解できるようにしている。	はい 24 どちらともいえない 0 いいえ 0 わからない 0	保護者の方と共通理解を持って子どもの成長をみていけるよう、支援内容の丁寧な説明に努める。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	今年度は保育士が「るぼろの療育何してる?」、療法士が「読み書きの力を育てるあそび」と題して講座を行った。今後も就学前児の保護者を対象とした講座や、行政担当による「手帳に関する講座」を予定している。	はい 22 どちらともいえない 0 いいえ 1 わからない 1	今後も定期的に、保育士・作業療法士・言語聴覚士による親講座の実施を検討している。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	毎回小集団療育終了後に、保護者の方に対して活動の様子や状況や課題についてお伝えしている。	はい 23 どちらともいえない 1 いいえ 0 わからない 0	全体のフィードバックの際に伝えきれない事については個別の説明に努める。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者の方から相談があったときには面談の時間を設定し、個別での対応を行っている。	はい 22 どちらともいえない 2 いいえ 0 わからない 0	相談しやすい雰囲気を作り、個別面談の設定をする仕組みについて再度全体に周知する。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	父母会を設けていないが、親講座の際に保護者同士で話をする機会を作っている。	はい 15 どちらともいえない 2 いいえ 1 わからない 6	父母会を結成する予定は現在ないが、親講座等で同じ地区の保護者の方と関わりを持てるよう配慮する等連携が取れるよう工夫する。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
援	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	契約時に苦情対応体制の説明を行っている。苦情に対しては受付日に保護者と面談し対応に努めている。	はい 17 どちらともいえない 1 いいえ 0 わからない 6	継続して、組織全体で、子どもへの関りや声かけは適切であるか見直し、常に丁寧な関りを意識することを徹底したい。
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	小集団終了後に毎回フィードバックを行っており、必要に応じて写真やビデオでも伝えている。子どもに対しては必要に応じてカードを使用してスケジュールを提示している。	はい 22 どちらともいえない 1 いいえ 0 わからない 1	今後も配慮に努める。保護者の方へ対してもわかりやすくお伝えできるようにフィードバックで実物をお見せしたり、実際に活動を見る機会を設けたい。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月るぼる便りで予定や各グループの活動紹介、避難訓練実施の報告などを行っている。	はい 24 どちらともいえない 0 いいえ 0 わからない 0	引き続き、発信報告していく。
	10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報使用同意書を作成し、外部へ提供する場合は同意が得られている場合のみ行う。個人情報が含まれる書類は施錠管理している。	はい 24 どちらともいえない 0 いいえ 0 わからない 0	今後も管理徹底する。また、個人情報の範囲を含め、取扱いに関しての職員研修を検討する。
非常時	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各種マニュアルを策定し、併設こども園と合同での委員会活動を行っている。嘔吐時対応訓練、防犯訓練、散歩時の事故予防研修など施設内研修を行っている。	はい 21 どちらともいえない 1 いいえ 0 わからない 2	訓練や研修の様子をお便り(機関紙)で掲載するなど、保護者への周知に努める。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	毎月1回、施設全体で様々な場面を想定し訓練を実施している。	はい 14 どちらともいえない 0 いいえ 0 わからない 10	周知が徹底できていなかったため、避難訓練を実施したことを毎月のお便り(機関紙)で周知していく。
	3	虐待を防止するための職員研修機の確保等の適切な対応	虐待防止責任者を中心に虐待の防止を啓発・普及するための研修を実施している。		リスクマネジメント会議の開催など、職員間で情報を共有し、子どもの尊厳を守るという意識を高めていく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
等の対応	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	子どもの特性や状況を職員間で共有し、パニックが起こった際には適切に対応するため、身体拘束は行っていない。 もし、やむを得ず拘束が必要とされる場合は、担当者会議でその必要性を検討し、会議録・個別支援計画の作成および保護者への説明と書面での同意を行ったうえで適切に対応する。		今後も身体拘束廃止に向け、職員研修を図りたい
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	当施設で給食を作っている為、指示書に基づき、管理栄養士と連携をとり、除去食を提供している。		アレルギーに関するリスクを十分理解し、子どもの命を守るため今後も適切な対応を徹底したい。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット事例が発生した場合には、報告書の提出と、職員朝礼時に確認・共有している。		ヒヤリハット事例に対して、迅速に分析・対応することにより、全体で危機管理に努めていく。